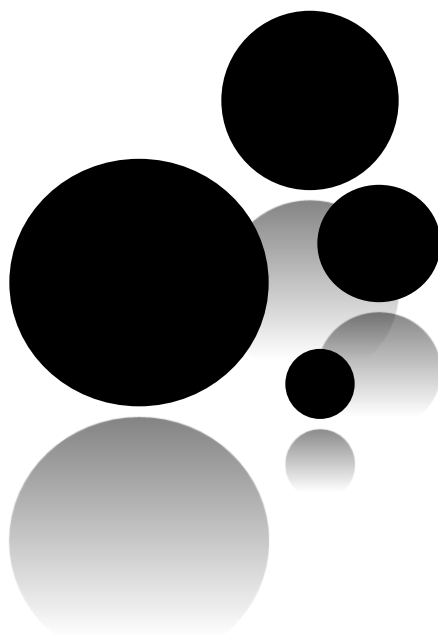


2022 夏 税理士オープンセミナー

【科目別攻略セミナー】

簿記論



**各コース初回講義を無料で体験受講できます。
開講日に、各校受付へ直接お越しください(予約不要)。**

※ コースの開講日につきましては、「税理士パンフレット」をご覧ください。

TAC税理士講座

目 次

ページ

テーマ1 科目の特徴 1

テーマ2 本試験の傾向と対策 2～3

テーマ3 8月入学コースの紹介 4

テーマ 1

科目の特徴

1 学習内容

1 8月入学 基礎マスター＋上級コース

(1) 基礎（8月～12月）

テキストNo. 1～No. 4までを使用し、年内で重要論点のインプットを目指す。

(2) 上級（12月～4月）

上級講義（20回）ではテキストNo. 1～No. 4までを使用し、年内に学習した内容の確認や追加論点のインプットを行う。

上級演習（10回）では、上級講義で学習した論点の確認だけではなく、実践力（答案作成力）を養う。

(3) 直前（5月～7月）

直前対策講義（10回）では、基礎・上級でインプットした知識の総まとめを行う。

答練（9回）及び全国公開模試（1回）で本試験レベルの演習を行い、本試験に向けて答案作成力に磨きをかける。

2 簿記論・財務諸表論の同時学習について

1 計算問題で重複する。

簿記論と財務諸表論（計算）のトレーニング（問題集）には、類似した問題も収録されているため、学習の負担を軽減（特に復習時間を短縮）させることができる。

2 理解力が向上する。

同一の論点について、各科目の特性に応じた講義を受けることができるため、多角的に学習することができ、理解が深まりやすい。

3 理論の暗記力が向上する。

財務諸表論（理論）では、会計処理の根拠や考え方を学習するため、簿記論の学習においても理解に基づいた学習を行うことができる。

テーマ 2

本試験の傾向と対策

1 受験者数・合格者数・合格率の推移

	平成29年 (第67回)	平成30年 (第68回)	令和元年 (第69回)	令和2年 (第70回)	令和3年 (第71回)
受験者数	12,775人	11,941人	11,784人	10,757人	11,166人
合格者数	1,819人	1,770人	2,052人	2,429人	1,841人
合格率	14.2%	14.8%	17.4%	22.6%	16.5%

2 出題傾向・難易度（合格ライン）・ボリューム

1 学者問題（第一問・第二問）

(1) 出題傾向

近年は個別問題形式で出題されている。個別問題では、複数の処理方法の比較、取引当事者間の処理の比較、取引が発生してから終了するまでの処理、数値の算定などが問われている。

(2) 難易度（合格ライン）・ボリューム

難易度については問題や年度により様々である。令和2年の第一問に関してはボーダーラインが配点の25点に対して20～23点であるが、平成26年の第二問に関しては8～10点であった。しかしながら毎年一定の合格率を保っていることから、本試験での合否を決するのは、難しい箇所が解答できるかではなく、受験生の多くが解答できる箇所を正確に得点できたかどうかである。

2 実務家問題（第三問）

(1) 出題傾向

実務家試験委員問題は、すべて総合問題形式で出題されており、また、問題構造もほとんどが決算整理型で出題されている。なお、解答箇所数は年によって様々であるが、解答箇所が少ない場合は、1箇所当たりの配点が大きくなることから、精度が重視される。

(2) 難易度（合格ライン）・ボリューム

第一・二問同様に、各年度により難易度は様々である。大事なことは学者問題同様、基本事項の精度である。

3 学習上のポイント

1 学者問題

複数の処理が考えられるものや、取引当事者の処理を比較するような問題、取引が発生してから終了するまでの処理を問う問題などに対応するには、各論点について、処理・金額の算定方法等の正確な理解が必要とされる。

論点ごとの処理方法を正確に身に付けることが重要となるが、このためには、基本テキストの内容をしっかりと確認し、該当するトレーニング（各回の講義内容に該当する個別問題を収録したもの）の問題を繰り返し解くことが大切になる。

2 実務家問題

個別問題と異なり、総合問題は問題の形式がほぼ同じであることから、演習を通じて答案作成練習を行うことが出来る。実力テストや演習、答練の復習を通じて、解く順番や取捨選択、解く際の工夫（メモ書き等）を身に付けていくことが大切である。

テーマ 3

8月入学コースの紹介

1 基礎マスター＋上級コース

基礎マスター＋上級コースでは、年内において本試験で最も重要な基本項目を年内で習得します。また、12月からは、上級講義で基本項目の再確認と応用論点の習得を行うとともに、上級演習でインプットした知識の習熟度の確認と解答テクニックを学び、答案作成力を高めていきます。年内・年明け・直前期と3回転させることで、より一層知識の定着を図ることができます。

8月	12月	5月	7月
基礎期	応用期	直前期	
<使用教材> ・基本テキスト ・トレーニング ・ミニ・実力テスト	<使用教材> ・上級テキスト ・トレーニング ・上級演習	<使用教材> ・直前対策テキスト ・直前対策トレーニング ・答練 ・全国公開模試	
インプット中心	アウトプット中心	アウトプット中心	

<具体的カリキュラム>

基礎期 (8～12月)	講義にて本試験で最も重要な基本論点のインプットを行い、定期的に行う「実力テスト」を通じて適宜インプットした知識の習熟度をチェックする。
応用期 (12～4月)	「上級講義」で基本項目の再確認と応用論点のインプットを行う。また、ほぼ毎週実施する「上級演習」でアウトプットトレーニングを行い、解答テクニックなどを身につける。
直前期 (5～7月)	「直前対策講義」では、基礎期・応用期でインプットした知識の総まとめも行う。また、毎週実施する「答練」で本試験レベルの演習を行い、本試験に向けて答案作成力に磨きをかける。